いしかり博物誌 109

石狩おばけ、とうとう現る

◀石狩浜から見た小樽方面。中央が高島岬。

この夏、石狩浜でおばけを見ました。

砂漠の彼方に幻の街が見えたり、海の向こうに普段は見えない対岸の景色が浮かび上がる――。蜃気楼（しんきろう）です。中でも像が上に伸びたように見える蜃気楼は「上位蜃気楼」と呼ばれ、日本では富山県の魚津市など限られた地域でしか見られない、珍しい現象です。

この上位蜃気楼、石狩湾でも高島岬や小樽港などで、昔からときどき見られることが知られています。地元の人々はこの現象を「高島おばけ」と呼び、古くは1846年、松浦武四郎が高島岬沖で目撃、記録しています。

石狩湾で蜃気楼が見えるのは、春から初夏。まだ冷たい海水の上に陸地で暖められた空気が流れ込むと、その温度差で光が上下方向に屈折し、伸び上がった像になるのです。そんな条件が整ったとき、小樽から見えるなら、同じ石狩湾沿岸の石狩側からも蜃気楼が見えるはず（いしかり博物誌83回参照）。蜃気楼を研究している小樽市の学芸員、大鐘卓哉さんの言葉を聞いてからというもの、石狩浜に出るたびに対岸の小樽方向を気にしていましたが…。

今年6月25日の昼過ぎ。真夏を思わせるような暑さの中、浜辺に出て小樽方向を見ると、高島岬の少し沖に、これまで見た記憶のない小さな島が2つあることに気づきました。あれ？と思って慌てて双眼鏡をのぞくと、島や岬の側面が不自然にビルのように垂直に切り立っているのが見えました。普段は水平線の向こうに隠れていた「トド岩」という小さな島が、上位蜃気楼となって伸び上がって見えていたのです。とうとう現れた石狩からの蜃気楼。「高島おばけ」ならぬ、「石狩おばけ」！

この蜃気楼の写真を見て、昔から石狩に住んでいる方がこんな話をしてくれました。「子どものころ、暑い日に石狩浜からロシアが見えた」――。水平線に普段は見えない陸地のようなものが見えることがあり、「ロシアが見える！」と言っていたそうです。「今思えば蜃気楼だったんだろう」。さすがに500km離れたロシア、いくら蜃気楼でも見えるはずはないので、実際は積丹半島や遠くの海面が伸び上がって見えていたのでしょう。

とはいえ「石狩おばけ」、やはり昔から出現していたことが分かりました。

（志賀健司）

▲高島岬先端（左の陸地）とトド岩（右側の島）が伸び上がって見えた上位蜃気楼。2010年6月25日、石狩浜から双眼鏡とデジタルカメラを組み合わせて撮影。

通常の高島岬先端。「トド岩」は見えません▶
（少しだけ角度が違うために旗の位置はずれています）。

■文化財課・いしかり砂丘の風資料館
☎62-3711 ✉bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp

ERIS「いしかり博物誌」は、えりすいしかりネットテレビ（http://www.i-eris.tv/）でもご覧いただけます。